

友達と協力してゲームをする活動を通して、話を聞くことの良さに気づき、日常生活に生かせるようにする授業

なかよし7組（自閉症・情緒）特別支援学級 自立活動学習指導案

指導者 福田 雅昂

1. 単元名 「なかよしゲーム」をしよう

2. 単元について

(1) 指導観

① 協力をしながら活動ができるように、聞く・伝える活動に取り組む。

本単元の序盤には、「ふわふわ言葉で風船バレー」に取り組む。この活動は、2対2で風船バレーをしながら「上手」「うまい」などのふわふわ言葉をペアで言い合い、ふわふわ言葉の数がポイントになる。どのような言葉を使うとみんなが楽しく活動できるか、体験を積み重ねることで意識させたい。また、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」を掲示し、様々な活動を通して言葉を書き足し、語彙を増やしながら活動していく。中盤には、「絵カード合わせ」に取り組む。この活動は、絵が半分書いてある絵カードを1人5枚ずつ持ち、指名した人に「〇〇のカードはありますか。」と聞いてペアを作っていく。他の人の質問を聞くことで、「△△さんは、〇〇のカードを持っていない。」や「△△さんは、〇〇のカードを探している。」といったヒントに気付くことができる。この活動では聞くことを意識させるとともに、前時までに作成・掲示した「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」も意識して使用できるようにする。終盤には「協力ジェスチャーゲーム」に取り組む。この活動は、お題に対してペアで役割分担を決めながら、どのようなジェスチャーにするか話し合いをする。「いいよ」「そうだね」のような同意の言葉、「～してみない？」「～どうかな？」のような提案の言葉を意識させることで、協力して話し合いを進められるようにしたい。

② 子どもが楽しんで学習ができるように、ゲーム性のある SST（ソーシャルスキルトレーニング）を行う。

本単元では、ゲーム性のある SST を用いて活動していく。ゲーム性のある活動にすることで、子どもたちは、意欲的に取り組むことができると考える。また、どの時間でもゲームを前半・後半に分けて2回行う。はじめにゲームを行い、自分の行動を振り返った後に再度ゲームを行うことで、良かった行動を反復しながら練習したり、改善点をすぐに直したりすることができる。その他、朝の活動時間や休み時間、授業初めの復習の時間にもゲームを行うことで、般化を目指していく。

本学級の子どもの中には、見通しがもてないと不安になってしまい、活動に消極的になってしまう子どもがいる。見通しをもって取り組むことができるように、①復習をする。②本時のめあてを知る。③教員のモデリング動画を見て、良い点、悪い点を見付ける。④良い点、悪い点を全体で共有し、どのように行動をしたらよいのかを考える。⑤ゲームを行い、考えたことを実践する。⑥教員から良かった点、改善点を聞き、自分の行動を振り返る。⑦もう一度ゲームを行う。⑧本時の振り返りをする。の流れでどの授業も進めていく。

③ 協力をしながら活動したり交流を広げたりするために、意図的にペアを構成する。

本学級は上学年と下学年がそれぞれ3人ずついるため、上学年と下学年がペアになるようにする。そうすることで、異学年との接し方を考えることができたり、上学年が下学年に教えたりすることができる。また、日常生活の中で子ども同士の関わりや個々の特性を考慮して、ペアを構成する。単元の最初は、新しい活動の見通しがもてず不安になってしまう子どもと、面倒見がよく説明が上手な子どもをペアにしたり、昨年度からクラスが一緒に仲の良い子ども同士をペアにしたりして、安心して活動することができるようにする。子どもたちが活動に慣れてきたら、普段あまり関わることのないペアを意図的に組むことで、交流を広げ、誰とでも協力がで

きるようにしたい。

3. 単元の目標

○ルールを守り、お互いに声をかけ合い協力をしながら活動することができる。

【3人間関係の形成（4）】

○相手の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。

【6コミュニケーション（1）】

4. 全体指導計画（6時間扱い）

時	○本時の目標 ・活動内容 【評価】（方法）	指導形態
1 2	○「ふわふわ言葉で風船バレー」をすることができる。 ・「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」を考える。 ・「ふわふわ言葉で風船バレー」をする。 【3人間関係の形成（4）】 ・言葉かけを考え、ペアで協力をしながら楽しく活動することができる。 (観察・振り返り)	個人 ペア 一斉
3 (本時) 4	○「絵カード合わせ」をすることができる。 ・相手の話を聞き、推理をしながら「絵カード合わせ」をする。 【6コミュニケーション（1）】 ・相手の話を最後まで集中して聞き、活動することができる。 (観察・振り返り)	個人 一斉
5 6	○「協力ジェスチャーゲーム」をすることができる。 ・協力して話し合いをするにはどうしたらよいか考え、同意の言葉、提案の言葉を考える。 ・「協力ジェスチャーゲーム」をする。 【3人間関係の形成（4）】 ・同意の言葉、提案の言葉を使って「協力ジェスチャーゲーム」をすることができる。(観察・振り返り) 【6コミュニケーション（1）】 ・相手の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができる。 (観察・振り返り)	個人 ペア 一斉

5. 本時の指導（3／6）

(1) 目標 ○相手の話を最後まで集中して聞き、活動することができる。

【6コミュニケーション（1）】

(2) 展開

時配	学習内容と活動 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○教師の支援 ☆評価 (方法)						資料
		A (1年)	B (6年)	C (2年)	D (6年)	E (3年)	D (6年)	
7	1 前時の復習をする。 ・「ふわふわ言葉で風船バレー」をする。	○「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」を掲示し、振り返ることができるようにしておく。 ○新しく出てきた「ふわふわ言葉」を活動の最後に確認し、書き込む。 ○「ふわふわ言葉」を言っている姿を称賛し、学習の意欲を高める。						・前時の掲示物 ・風船
2	2 学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">あいてのはなしをさいごまできいて、「えカードあわせ」をしよう。</div>	○話を聞くスキルを身に付けるために、ゲームを通して練習していくことを伝える。						
3	3 本時の学習の見通しをもつ。 (1) どうが (2) よいてん・わるいてんをはなしあう (3) えカードあわせ1 (4) ふりかえり (5) えカードあわせ2 (6) ふりかえり	○学習の流れがいつでも確認ができるように掲示しておく。 ○遊び方・ルールを確認し、板書することで、いつでも確認できるようにする。 ○「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」も意識して、優しい言葉かけをするように伝える。 ○個人で競うのではなく、全体でたくさんのカードを完成させることを伝える。 ○完成した絵カードは、数が確認しやすいように並べる。 ○全体でめあてを話し合って決め、活動への意欲を高める。						・本時の流れ
5	4 モデリング動画を見て、良い点や悪い点を話し合う。	○2つの動画を見せることで、良い点、悪い点を見つけやすくする。 ○話の聞き方は「相手の方を見て話を聞く」「相手の話は最後まで黙って聞く」のポイントを確認する。 ○良い点を板書することで、どのような点を意識すればよいのかわかりやすくする。						・モデリング動画
12	5 ルールを確認し「絵カード合わせ1」をする。 (1) 円になって座る。 (2) 「○○さん、△△のカードを持っていますか？」と時計回りに聞いていく。 (3) 全体で5枚ペアがそろったら課題クリア。	○「△△さんは、○○の質問をしていたね。」「△△さんは、○○のカードを持っていないね。」などの確認や推理のヒントとなる言葉を使う。 ○時間を意識して活動ができるように残り時間が見てわかるタイマーを用いる。 ○「ふわふわ言葉」を使うことができたならその都度称賛する。						・タイマー ・絵カード ・絵カードを置く台紙
		○質問の仕方や答え方に慣れるまで教	○低学年に教える姿を称賛する。	○聞き方のポイントが意識できている	○話す時と聞く時の切り替えができる	○質問する相手に体を向けるように声	○話す時と聞く時の切り替えができる	

		員がそばで支援をする。	ことを認め、意欲を高める。	ように声かけをする。	かけをする。	ように声かけをする。	
3	6 良かった点・改善点を聞き、自分の行動を振り返る。 ◎どうすればペアのカードを見つけられますか。 ・他の人の話を聞いていれば持っているカードがわかる。 ・りんごのカードを探していたら、りんごのカードを持っていることがわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が聞いたり聞かれたりしていなくてもヒントがあることに気付けるように、他の人の質問や答えから推測している姿を褒める。 ○「相手を見て聞く」「最後まで話を聞く」ができている姿を紹介する。 ○改善点がある場合には、どのような行動をとればよかったのか伝えたり、考えたりして次の行動に生かせるようにする。 					
10	7 「絵カードあわせ2」をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○1回目の結果よりもペアが多くなるように課題を設定する。 ○各チームの良かった所・改善点を踏まえたうえで活動することを伝える。 ○「今、何て言ってた？」と聞くことで、話の内容を確認し、推理の手助けをする。 ○聞き方のポイントが意識できていない場合は、活動を中断し、意識できるまで待つ。 ☆相手の話を最後まで集中して聞き、活動することができたか。(観察) 					<ul style="list-style-type: none"> ・タイマー ・絵カード ・絵カードを置く台紙
3	8 振り返りをする。 ◎今日の「絵カード合わせ」をしてみても良かったこと、できたことは何ですか。 ・相手の方を見て話を聞くことができた。 ・相手の話から、持っているカードを予想することができた。	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあてを確認し、何を振り返るのか確認する。 ○「わかったこと」「できたこと」を振り返りに書くようにする。 ○振り返りを書くことが難しい子どもには、活動中に本時のめあてに沿った行動ができていたことを称賛する。 ○次時にやる活動を伝え、意欲化を図る。 ○個々の子どもの良かった点について、子ども同士だけではなく教員からも伝えるようにする。 					<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード